

FIP転と蓄電池併設で業界先駆け 成功例生かした横展開に意欲

2025年6月24日

Post

いいね! シェアする

【エネルギービジネスのリーダー達】小林直子／CO2OS代表取締役社長

社名の末尾「S」に、荒野のような太陽光O&M業界で強く生き残る覚悟を込めた。多角的で安定した戦略を描く小林社長が狙うのは、FIP転換と蓄電池併設事業の拡大だ。



こばやし・なおこ 京都府出身。2003年、立命館大学文学部哲学科卒業。外国語教室や広告代理店での営業職を経て、12年に中国系太陽光モジュールメーカー大手・インリー・グリーンエナジー日本法人に入社し、法人営業を担当。15年、CO2Oに入社。23年5月にCO2OSへ転籍、同年10月より現職。

再生可能エネルギー投資を手がける大和証券グループの大和エネルギー・インフラがCO2Oの事業を承継し、2023年5月に発足させたCO2OS。北は宮城県から西は宮崎県まで、全国15の市町に電気主任技術者や電気・土木施工管理士などの有資格者を配備した拠点を構え、太陽光発電所の設計施工から運営までを一貫して担う体制を築いている。陣頭指揮を執るのは、営業畑を長く歩んできた小林直子社長だ。「ストック型のO&M（運営・保守）やアセットマネジメントと、スポット型の工事やデューデリジェンス（DD）の両輪で経営していく」と語り、多角的で安定した収益モデルの確立に注力している。

多業種で営業力磨く 再エネの可能性見出す

技術力を売りとするCO2OSの経営陣にあって、小林氏の経歴はやや異色だ。大学では哲学を専攻し、03年の卒業後は外国語教室に就職。滋賀県のスクールで店舗運営を任された後、営業成績が評価され東京都内のエリア責任者に就任したが、会社が倒産。07年には広告代理店に転じ、法人営業を経験した。

エネルギー業界の門を叩いたのは12年。中国系太陽光モジュールメーカー大手インリー・グリーンエナジーの日本法人に入社し、法人向け営業に従事した。「FIT（固定価格買い取り）制度の導入直後で、再エネビジネスの成長性を肌で感じた」と振り返る。大手企業を中心に営業を展開し、製造現場へ足を運ぶ中

で、「工場監査では温度管理など細かい質問を受けることも多く、技術的なバックボーンの重要性を痛感した」と語る。

15年には、インリー社と関係の深かったCO2Oに創業メンバーとして参画した。「FIT価格は将来的に下がり、パネル販売量は落ちる。一方、O&Mの需要は高まっていく」。そうした見通しを描いていた創業者が小林氏の営業力に注目し声をかけたという。

しかし、当時の太陽光O&M事業は市場が未成熟で、創業間もない同社の受注は困難だった。そこで、収益の安定化を図るべく、単発対応が可能なDD事業に着目した。DDは、施工前や完工時に、発電所のリスクや技術的要素などを調査し、資産価値を評価する。投資家側からは、プロジェクトファイナンスを組むに当たり、発電所の健全性や事業の継続性について、第三者の立場から評価する需要が高まっていた。「当社は、単にリスクを洗い出して評価を終えるのではなく、その改善策までアドバイスしている。設計施工から運用までを一貫して手がけているからこそ、発電所の課題を抽出し、投資家に対して同じ目線で説明できる」と強みを語る。

草刈り一つとっても、放置すれば発電量の低下につながる重要な作業であり、事業計画上の必要コストに含めるべき項目だ。業界外からは見落とされがちな点を、投資家に丁寧に伝える橋渡し役を担っている。DDによる評価診断の実績は、23年7月時点で累計5・5GWに達した。こうした信頼の積み重ねが、本命と位置づけていたO&Mの受注増加へとつながり、全体の業績を押し上げている。

今後の戦略として小林氏が見据えるのは、FITからFIP（市場連動価格買い取り）制度へ転換し、蓄電池を併設する関連事業の展開だ。CO2OSはこの分野にいち早く着目し、23年には東芝エネルギーシステムズなどと3社共同で、「さつまグリーン電力2号太陽光発電所」（鹿児島県さつま町）のFIP転換と蓄電池併設を実施。案件開発から施工までを手がけた。FIP転換と蓄電池併設の実例がない中、プロジェクトマネージャーとして事業を推進したのが小林氏だった。「収益面でベースシナリオとワーストシナリオを試算した。赤字にはならないと判断し、実験的に始めて成功事例をつくり、横展開していく方針を3社で共有できた」と話す。同発電所の蓄電池のO&Mも担っており、今後は他設備での実績を積むため、O&Mの体制を整備するとともにDD事業にも取り組む。

強く生き残る企業に 自らの思いSに込める

同社の設立に当たり、社名の末尾に付けられた「S」には3つの理念が込められている。①Second Stage（次なる成長ステージ）、②Self Standing（自立した運営）、③Synergy（グループ間シナジー）一だ。社長に抜擢された小林氏は、就任時に自らの想いを込めた言葉として「Survive Strongly」を掲げた。「O&M業界は競争が激しく、荒野のような状況に立たされている。だからこそ強く生き残ろうという意味を込めた」という。

座右の銘は「成功か、大成功しかない」一。柔らかな語り口で親しみやすい人柄と、併せ持った芯の強さで業界をけん引していく。